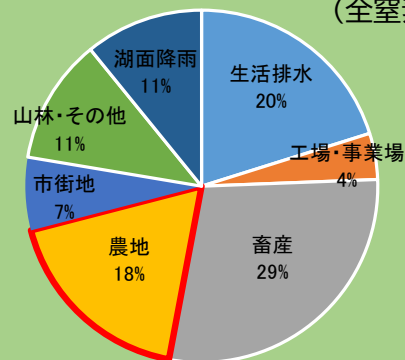


農地からの濁水の流出に注意！



環境にやさしい農業で霞ヶ浦をきれいにしましょう！

図：霞ヶ浦(全域)への排出負荷割合 (全窒素)



水田からの濁水流出の様子

【霞ヶ浦における農地対策の必要性】

- 霞ヶ浦流域の約38%が農地であり、水質汚染の要因の一つとされる窒素の排出量は、農地由来のものが約18%を占めています。（左図参照）
- 特に、水田では、土に含まれる肥料成分等が代掻き時に濁水となって流出すると、霞ヶ浦の水質を悪化させます。
- 農業者の皆様が環境に対する意識を持って、流域全体で水質保全に取り組むことで、霞ヶ浦をきれいにしましょう。

水や土を大切に！

農地の流出水対策に取り組みましょう！（裏面に続く⇒）

漏水防止

- ✓ 畔塗りの実施、畦なみ板の設置
- ✓ 畦畔の定期的な点検・補修



代掻き時の濁水流出防止

- ✓ 落水口を適切に管理しましょう。
- ✓ 田植え前の強制落水は止めましょう。



田面排水の抑制

- ✓ 水田への入水は、排水の状況を見て適切に管理しましょう。
- ✓ 用水のかけ流しは止めましょう。



参考:農地の流出水対策に効果的な取組例

水位調節型落水口の設置

- 堰板の設置や塩ビ管の継ぎ足しなどで排水管理を行う従来の落水口に比べて、水位調整管の上げ下げのみで容易に排水管理を行うことが出来るため、農業者の労力が軽減できます。
- 代掻き時等に、水位調整管を上げることで濁水の流出を抑えます。



水位調節型落水口

取っ手部分を持ち上げるだけで、落水する水位を高く設定できます。

田植え前の強制落水の防止

- 代掻き時は、水を入れすぎず、浅水で行うことで、田植え前の落水量を抑えます。

【浅水代掻きのポイント】

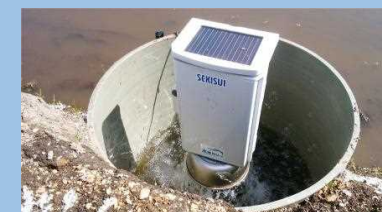
- ① 入水前に田面を均平化する。
- ② 畦畔が崩れていないか確認する。
- ③ 排水口に止水板を設置する。
- ④ 土が7~8割程度見えるぐらいの入水量とする。
- ⑤ 田植え前の落水は行わず、自然落水により水位調整する。



浅水で代掻きする様子

自動給水栓・水位水温センサーの設置

- 田面排水を抑えるためには、こまめに給水栓操作を行うなど手間がかかりますが、こうした時間と労力を削減するために自動給水栓があります。
- 自動給水栓は、給水する時間や周期、必要な水位等の設定により、自動で給水・停止するため、手間をかけずに用水の節水が図れます。
- 水位調節型落水口等による適切な排水管理と組み合わせることで、田面排水を一層抑えることが出来ます。
- 水位水温センサーを設置すれば、水位と水温をスマートフォン等から確認することができ、よりきめ細かな用水管理が可能となります。



自動給水栓による給水の様子 (S社製品)



水位水温センサー設置の様子 (H社製品)

漏水等にも速やかに対応することが出来ます。

自動給水栓等の導入には、農業農村整備に係る各種の国補事業が活用できる場合があります。興味のある方は、県農村計画課又は最寄りの農林事務所土地改良部門にご相談ください。

茨城県農林水産部農地局農村計画課
(令和4年2月作成)